

第二期大和市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対する市民意見公募の結果

■ 公募手続の概要

意見募集期間：令和元年12月16日（月）から令和2年1月15日（水）まで

意見提出方法：持参、郵送、ファックス、電子申請（氏名・住所・意見を明記）

周知方法：公共施設への資料配架（こども総務課、市役所1階情報公開コーナー、各分室、各連絡所、各コミュニティセンター、各学習センター、市民活動拠点ベテルギウス）

広報やまと（12/15号）

市ホームページ（12/15～1/16）

公表した資料：第二期大和市子ども・子育て支援事業計画（素案）

第二期大和市子ども・子育て支援事業計画（概要版）

■ 意見提出者数と意見数 6人・17件（同様意見含む）

■ 寄せられた意見の概要と市の考え方

1. 子ども・子育て支援事業計画の基本的事項について

（1）幼児期の教育・保育

	意見の概要	市の考え方
1	平成31年4月1日時点の保育所入所待機児童数が、4年連続ゼロとなったことを評価する。維持していくためには、1歳児を中心に、保育所等を新規整備し続ける必要があると考えるが、保育施設はまだ足りない現状にあると思うので、確実な整備を行ってほしい。	計画期間中の保育ニーズ（量の見込み）については、ニーズ調査の結果や直近の利用実績から推計しており、今後も確実に増加が見込まれています。 このため保育所整備以外にも、保育ニーズが集中する0～2歳児を対象とした小規模保育事業所の整備や既存施設である幼稚園を活用するために、預かり保育や送迎ステーション事業を充実させるなど様々な手法で保育の受け皿を確保していくこととしています。
2	これまでの5年間で、保育所数はかなり増加し、すでに定員割れしている保育所もある。待機児童が多いのは保護者の育休明けの1歳児クラス、2歳児クラスであり、待機児童ゼロを継続するために、多額の費用をかけて保育所を新たに建設・増設することに懸念を感じる。	なお、新設の保育所では3歳児以降のクラスにおいて定員に空きが生じる傾向はありますが、数年で充足している状況です。

（2）地域子ども・子育て支援事業

	意見の概要	市の考え方
1	公私連携型保育所内に新たに地域子育て支援拠点事業を開設するとあるが、利用者の住む場所からより身近な場所に設置されることが望まれていると考える。市内各駅に設置するなど、設置個所の増加について検討してほしい。（同様意見他1件）	地域子育て支援拠点事業につきましては、現在市内4か所で実施していますが、より身近な地域で利用されることが望ましいことから、本計画では開設箇所を5か所に増やすこととしています。開設箇所数の増加については、各拠点の利用実績やニーズ調査により市民ニーズの把握に努めてまいります。

2	一時預かり事業(保育所等における一時預かり、幼稚園型を除く)、ファミリーサポートセンター事業について、量の見込みと確保方策の差引が0であることに違和感を覚える。本当にサポートを求めている人にサポートが行き渡るよう計画しているのか。	計画期間中の各事業の量の見込みについては、ニーズ調査の結果や直近の利用実績から推計しており、この量の見込みに対し不足が生じないよう確保方策を講じることとしております。 今後も各事業の利用実績やニーズ調査により、市民ニーズの把握に努めてまいります。
3	一時預かり事業(保育所等における一時預かり、幼稚園型を除く)について、北部と南部の差がありすぎる。この差をどうやって対応していくのか明記してほしい。	区域ごとの量の見込みについては、推計児童数や直近の利用実績が異なることから差異が生じます。地域のニーズに応じたサービスの提供体制を整備できるよう、確保方策を講じてまいります。
4	一時預かりについて、少しリフレッシュしたいというような需要を満たせる施設が不足している。保育施設の整備と同時に、一時保育施設の充実も進めてほしい。特に大和市内には0歳児を預かってくれる一時保育施設がほとんどないと思う。	一時預かり事業については、育児疲れなどのためにリフレッシュが必要な保護者や養育等に課題がある家庭の支援につながる重要な役割を担っていると考えております。 保護者が必要な時に子どもを預けられる状況を整えるために、令和3年4月に開所を予定している公私連携型保育所で0歳児から預かる一時預かり事業を実施する予定です。

2. 施策の展開について

(1) 基本目標1「希望する幼児期の教育・保育が受けられる体制づくり」

	意見の概要	市の考え方
1	公私連携型保育所等整備事業について、第一期計画の中間見直しに記載がなかった。計画案の段階で、子ども・子育て会議や議会などで審議されているのか。	第一期計画の計画期間は令和元年度までであることから、令和3年度に開設予定の公私連携型保育所の整備については、本計画において初めて掲載しました。本計画の策定にあたっては、大和市子ども子育て会議の審議を経ております。 また、市議会においても公私連携型保育所の施設整備に関する予算が審議されているほか、一般質問においても整備の方向性や事業内容などについて複数回取り上げられています。

(2) 基本目標2「親育ち・地域の子育て力を育む基盤づくり」

	意見の概要	市の考え方
1	保護者同士の交流や、専門的な人と話しがしやすい場所が必要だと考える。 既存のこども一歩の整備をはじめ、既存のボランティア団体が続いていけるよう、政策(人件費、家賃補助等)を盛り込んでほしい。	本計画では、基本目標2一個別目標②「子育て支援の拠点・つながりの充実」を掲げ、子育て家庭がより身近な場所で気軽に相談や交流ができる環境を整備し、親子のつながりがより一層広がるよう事業内容を充実していくこととしています。具体的には、つどいの広場事業、地域育児センター事業の実施のほか、子育てサークルの育成支援などを行います。 いただいたご意見につきましては、地域の子育て力の向上を推進する中で、今後の参考とさせていただきます。

(3) 基本目標3「安心して産み育てやすい環境づくり」

	意見の概要	市の考え方
1	<p>妊娠中や産後の大変な時期に、子どもの送迎や預かりをしてくれる人や場所が、当日飛び込みであっても確実に確保できる環境があれば、安心して妊娠生活を送ることができると思う。</p> <p>民間サービスを利用できれば問題ないのかもしれないが、金銭的負担は非常に大きい。民間のシッターサービスや家事代行サービスに補助があれば良い。</p>	<p>保護者の妊娠・出産や病気の際の子どもの預かりや送迎などのサポートについては、ファミリーサポートセンター事業において生後0日から小学校6年生までを対象としてサービスを提供しています。</p> <p>また、保育所等では一時預かり事業も行っており、本計画では、令和3年4月に開所を予定している公私連携型保育所でも事業の実施を予定するなど、市民ニーズを踏まえ、提供体制の拡充を計画しており、安心して生み育てやすい環境の整備を進めていきます。</p> <p>なお、育児や家事に関する民間サービスを利用した際の補助についてのご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>子どもに対する支援だけではなく、親への支援が不足している。親が体調を崩したとき、未就学の子がいてと休養することができないことが問題とを感じる。</p>	
3	<p>多胎児の支援について、妊娠中はもちろん、少なくとも小学校入学まで支援が必要であると考え。専業主婦の場合でも保育園など優先的に利用できる、サポートする人の手配などの支援すべき。</p>	<p>多胎児の支援については、母子健康手帳交付時に多胎妊娠などの状況を把握し、助産師による産前産後のサポートや、出産後、早期に赤ちゃん訪問を実施するなど継続的な支援を行っています。</p> <p>また、ファミリーサポートセンター事業では生後0日からの育児支援を行っているほか、子育てに不安や孤立感をもつなど支援を必要とする場合には養育支援訪問を実施し、心理士による相談や訪問スタッフによる育児の支援も行っています。</p> <p>なお、保育園の利用については、多胎妊娠の場合には、出産前14週から出産後8週までの利用が可能としています。</p>
4	<p>子どもの食事について、疑問・不安を持っている親が多いため、気軽に相談できる管理栄養士・栄養士を保育園に配置することを提案する。その中で、保育園給食の献立・栄養管理だけではなく、保護者に寄り添う機会を多く持つべき。また、厨房内業務を行う調理員とは別に管理栄養士・栄養士を配置することや、増員のための補助金が必要であると考え。</p>	<p>管理栄養士の配置については、各園の運営事業者の考え方に委ねられていますが、本市では、市の管理栄養士が地域の子育て家庭を支援するために、食生活全般にわたる相談に対応するようにしています。</p> <p>具体的には、公立保育園では、地域の子どもと保護者が実際に給食を食べながら、管理栄養士に食に関する相談が気軽にできる機会として「たべよう会」を定期的に開催しています。また、行政の管理栄養士が民間保育園を訪問して、食事に関するアドバイスを実施するなど食育の推進に努めています。</p>

(4) 基本目標4「子どもの生きる力をのばす環境づくり」

	意見の概要	市の考え方
1	ボール遊びできる場所が少ない。	<p>本計画では、基本目標4－個別目標②「豊かで多様な遊びや体験の場づくり」を掲げており、外遊びの機会を創出するため、「ボール遊びもできる公園」を整備するなど環境の充実に努めていくこととしています。</p> <p>「ボール遊びもできる公園」については、平成30年度末までに36か所を整備しておりますが、今年度中にさらに15か所を整備する予定であり、引き続き充実に努めてまいります。</p>

(5) 基本目標5「さまざまな家庭の状況に応じた支援体制づくり」

－意見なし

3. 計画全般・その他

	意見の概要	市の考え方
1	全体的に働いていない親への支援が少ない。働いている、働いていないに関わらず、線引きのない支援を求める。	<p>本市では、全ての子どもが健やかに成長し、保護者が安心して子育てができるよう、妊娠を考えた時から、妊娠、出産、子育て期をとおして、保護者の就労の有無にかかわらず、さまざまな子育て支援施策を積極的に行っております。</p> <p>本計画は、保育所の整備を進めるなど急速に進む共働き家庭の増加などに対応する施策だけでなく、産後健康診査事業、産後ケア事業の実施、ITを活用した子育てに関する情報発信の充実など誰もが地域で安心して子育てができる環境を整えるための施策を掲げています。</p> <p>また、本計画の基本目標1－個別目標①にある公私連携型保育所の整備においては、地域子育て支援拠点事業や一時預かり事業などの地域の子育て支援機能の整備に加え、災害時には乳児とその母親に特化した避難所としての活用も想定するなど、子育て中の親子が幅広く利用できる施設として計画しています。</p>
2	パブリックコメントが行われていることが広く知られていないことが問題だと思う。また、公開資料について、子育て支援センターやこども一顧など、子育て世代が寄り付く場所に設置してほしい。	<p>当該計画の内容に関するご意見ではありませんが、ご意見として今後の参考にさせていただきます。</p>
3	計画の文面が読みづらく、誰が読むための文書なのか疑問に感じた。	<p>読みやすく分かりやすい文章となるよう心がけるとともに、用語の解説を記載するなどしておりますが、ご意見として今後の参考にさせていただきます。</p>